

酔花

数え日や数の子並ぶうどん棚

数え日や追っかけのないテレビ欄

白い物ふっと動いて猫の顔

えり

アディショナルタイムの笑ひ梁の煤

霜の花冷凍に付け店繁盛

数え日や立ち尽くす鳥堰の音

志津子

○ムーミンが踊っているか雪明り

夜の雪彼方に怪しきものを秘め

雪折れのバラは蕾を抱いたまま

富子

○年の瀬にブルーマウンテン奮発す

煤払い遅らす決心 Dr コトー

非喜は口にせず立つ森保氏

千代

○母四角私は丸く煤払

○数へ日のレシート長く垂るるなり

野兎の跳ねて山腹笹の中



農子

○ふんわりの雪を崩さずポスト開く

早朝の釣に出かける煤払

数え日の窓ガラス拭く青い空

初江

○ロボットの運ぶ定食年の暮

去年今年津軽海峡フェリー揺る

煤逃げの夫へのライン「鍵変えた」

富江

○千両を持ちくれし友笑みも持ち

○煤払い東京ばな奈ひよいと来て

数え日や喪の家伺い帰途自問

美貴

○数へ日の胃の腑をさぐる内視鏡

吾が身丈届く範囲の煤払

映る雲川は流さず十二月

丞子

○鉄鍋の煤に火の付く「きつねの嫁入り」

数え日の句会を埋める隙間かな

下校まで待てぬ広場の雪達磨

郁子

○煤逃の男澄まして散髪屋

数へ日や遺言書かくぼけぬ間に

侘助の紅生きていし雪の間に

味元 昭次 作品

思案顔して煤逃の句座の隅
土佐弁が過ぎ幡多弁が過ぐ数え日
煤逃の男が眺むモディリアーニ

★次回市民句会

【開催日時】

令和五年一月二十五日（水）

午後一時十五分～午後四時（予定）

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます

